

令和元年度

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業

研究成果発表会



日時：令和2年1月16日（木）10：00～12：10

場所：南相馬市民文化会館 ゆめはっと 大ホール

※【活動報告資料・成果物展示】2Fホワイエ



福島県立小高産業技術高等学校

# 目次

●発表会次第	2
●SPH研究事業イメージ図	3
●各科発表概要資料	
工業科の取組	4
(ア) 多面的、総合的に考える力	
(イ) 未来を予測して計画できる力	
(ウ) 批判的に考える力	
商業科の取組	8
(ア) 多面的、総合的、批判的に考える力	
(イ) 未来を予測し、企画・計画・立案できる創造力	
(ウ) 課題解決のために挑戦し継続する力	
(エ) コミュニティ形成力（伝える力・コミュニケーション力）	
(オ) 情報収集・活用・統合力	
クロストレーニングプログラムの取組	10
(ア) 関連付ける力	
(イ) 人とつながる力	
(ウ) 試す力	

# ---発表会次第---

## (1) 開会行事

①開会のことば

②校長あいさつ

③来賓挨拶

SPH運営指導委員会委員長 国立大学法人福島大学 教授 高橋 隆行 様

福島県教育委員会 教育長

鈴木 淳一 様

④来賓紹介

⑤閉会のことば

## (2) 本校におけるSPH事業概要説明

## (3) 研究成果発表

### ○プログラム（発表順）

No	発表内容	発表者	
1	【工業科】 「新たな産業集積に対応できる技術・技能を習得した『工業人』を目標として	機械科3年A組	酒井 千弥
		電気科3年	新川 兼汰
		電気科3年	遠藤 綾人
		産業革新科3年A組	田中 悠太
		産業革新科3年A組	山田 留萌
2	【商業科】 「地域の資源や新しい技術をビジネスに活用できる『商業人』を目標として	流通ビジネス科3年	北内 珠羅
		流通ビジネス科3年	渡邊 舞乃
		産業革新科3年B組	佐藤 愛
		産業革新科3年B組	小林 綱大
3	【クロストレーニングプログラム】 「学科間が協力して、新たな価値を発見し、地域課題の解決・復興につなげるための取組」	電気科3年	荒 幸希盛
		産業革新科3年A組	鈴木 響
		流通ビジネス科3年	稲垣 未夢
		流通ビジネス科3年	海老沢 七虹

## (4) 講評

文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)付産業教育振興室 教科調査官(工業) 持田 雄一 様

文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)付産業教育振興室 教科調査官(商業) 田中 圭 様

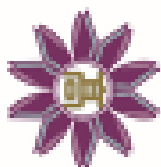
## (5) 閉会行事

①開会のことば

②校長あいさつ

③生徒代表お礼のことば

④閉会のことば



福島県立  
小高産業技術高等学校  
Oosaka Industrial Technology and Commerce High School

## 東日本大震災・原発事故からの地域復興を担う人材育成

- 地域復興への取組ができる人材の育成
- 震災の風化防止、原発事故の風評払拭に向けた取組、地域資源の見直し、活用
- 福島イノベーション・コースト構想に寄与する人材の育成（工業科）
- 新たな産業集積に対応できる技術・技能を習得した工業人の育成（商業科）
- 地域の資源や新しい技術をビジネスに活用できる商業人の育成
- Cross Training Program(学科間相互学習計画)による未来視点を有する人材育成
- 工業科と商業科における学習内容を相互に学習するプログラムの作成

自ら考え行動し、未来を創造する力

自らを価値ある人間だと考えられる力

自らの参加により地域に貢献できる力

地域の資源や新しい技術をビジネスに活用できる力

- ・多面的、総合的、批判的に考える力
- ・未来を予測し、企画・計画・立案できる創造力
- ・課題解決のために挑戦し継続する力
- ・コミュニケーション形成力
- ・伝える力・コミュニケーション力
- ・情報収集・活用・統合力

### 商業科

- 産業革新科
- ICTコース
- 経営・金融コース
- 流通ビジネス科

### 工業科

- 機械科
- 電気科
- 産業革新科
- 環境化学コース
- 電子制御コース

連携

### Cross Training Program

新たな価値を発見し、地域復興を実現する力

- ・関連付ける力
- ・人とながる力
- ・試す力

工業に関する知識や技術及び技能を活用して、新たな産業集積に対応する力

- ・多面的、総合的に考える力
- ・未来を予測して計画できる力
- ・批判的に考える力

福島県教育委員会

一体となって実践研究を推進



本校